

令和5年度 上田市立清明小学校 自己評価シート

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)		総合評価						
「清く明るく 豊かな心で 進んで学ぶ 子どもの 育成」 ・心も体もたくましい 子ども ・自分や友だちを大切に できる子ども ・自ら学ぶ子ども		①自主:豊かなかわりやさまざまな体験を通して、自分で気づき、よく考えて自らたくましく行動できる子ども ②豊かさ:お互いに認め合う中で自分に自信を持ち、友とのかかわり合いを大切に、共に学習や生活を楽しむことができる子ども ③学び:自ら見つけた課題を、友と考えをつなぎからめ合いながら追究し、学びの楽しさや高まりを実感できる子ども		①自分の仕事でなくても率先してクラスのために率先して取り組む児童があり、良いお手本として全体に紹介することで、子どもたち一人一人の意識を高めようとしてきた。一方で、自分のこと以外は何もしないという子もいるので、そのような子も含めて自主的な姿を求めて働きかけを継続する。任せて挑戦する姿を見守る姿勢も大事にしたい。 ②良さを共有する活動の継続。友達と声をかけ合って協力して活動し、物事を成し遂げようとする経験をさらに積み重ねることで、生活や学習に楽しみを見いだせるような取組を継続していく。 ③課題を追究するために、友と意見を共有し、自分の考えをまとめ深められるような活動を取り入れてきた。各教科の学習の中で、自ら課題を見つけて調査にのめり込む姿や、友と考えを共有し、さらに自分の考えに深めて、まとめを記す姿が見られるようになってきた。主体的に取り組めるように活動形態や題材の工夫・提示の仕方など考えていきたい。						
		今年度の重点目標		成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
		1	一人ひとりの個性を生かし、多様性を包み込む学級・学校づくり (自主・豊かさ)	学級の係の仕事覚えて取り組んだり、自分達で運営したりすることで、クラスでの役割を自覚できるようになった。		○			自分から取り組む仲間の姿を広め、声をかけ合い協力する場面を共有するなど、主体的な活動を推進する。	
2	「学びの主体者」としての子どもを育てる「ふるさと学習」の充実 (学び)	地域とのつながりを大事にした活動を展開し、子どもたちが主体となる活動ができた学年と課題の残る学年があった。			○		子どもたちの思いを引きだし、先生方の持っている素材を共有しながら、思い切った活動が展開できるよう取り組む。			
	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
重点目標	1 自主・豊かさ	成功経験の累積	困難にぶつかったとき、仲間とともに解決していかれる適切な支援を繰り返しながら、乗り越える成功経験を積ませたか。	失敗や間違いを大事に、そのあとどのような行動をとれば良いのかを考えあい、その後の行動に活かせるようになってきた。		○			どのような場面で、どんな判断をして行くのがよいのかをSSTや学級活動など、様々な場面で互いの考えを共有しながら、自分で解決していく力を伸ばしたい。	
		挨拶の充実	日常的な声がけや、児童会活動の充実により、挨拶の良さを自覚させながら、実践と評価を繰り返し、積極的に挨拶が飛び交う学校を目指したか。	元氣な挨拶ができる子、挨拶をされてそのまま流してしまう子がいる。「ありがとう」が言える場面を大事にすることができた。		○			進んでできた場面の紹介、授業のはじめや終わりの挨拶、給食の挨拶など、場に応じた挨拶を意識的に行うなど、日常の中で声を出していくことを強化していく。	
		人権同和教育の日常化	一人一人を大切に、違いを認め合い、共に学びあうよさが実感できる人権同和教育を日常化したか。	なかよし旬間での活動を起点に、日常的に仲間の良さに目を向ける事ができるようになった。人権課題を意識させたい。		○			人権とは何かを職員も学び、日常の中の人権問題をとらえることができるようにする。ブロック人権同研修会(11月実施)を機に全職員で学びたい。	
		思いやりの心の育成	児童を肯定的に捉え、温かい言動で接しながら、思いやりの心が全体に広がるように取り組めたか。	友だちに対する心遣いや言葉がけなど、良い姿が広がっている。一方で他人事のように俯瞰してみている姿もある。		○			良い言動を広めることを継続しながら、自分の言動を振り返る場面を道徳等授業の中に位置づけていく。教師の手下本「ありがとう」の言葉を大事にする。子どもと一緒に言動を振り返る機会も大切にしたい。	
		研修を生かした実践	特別支援教育の研修や、児童理解の研修を全職員で積み重ね、研修を生かした実践に取り組めたか。	ベテラン・若手それぞれの持ち味を共有したり、学級経営について学び、実践してみることができた。		○			授業を見合う時間を意識してとる。学年会の時間に経営方法について共有する。連学年で学級経営について考える。	
	2 学び	「ふるさと学習」の推進	「ふるさと学習」を通して、探究する楽しさを体験させながら、粘り強く追究する意識を育て、やり遂げた成果に自信を持たせたか。	地域に出て、地域のひと・もの・ことに触れる機会は多くとることができた。また、情熱をもって仕事をされている方と交流をすることで探究したいという気持ちを養っていききたい。		○			各学年・学級の活動を共有し、互いの活動の良さや取組み方を学び合い、教師の実践力を高める。地域から発信されているものなどへのアンテナを高くし、機を逃さない。	
		児童会活動、係活動、朝マラソン、靴揃えなどへの取り組み	自分から進んで、児童会活動や係活動、朝マラソンや靴揃えに取り組めるよう工夫して指導することができたか。	クラスのカンパニー活動を通して、高学年での児童会活動につながっていくような自主的な活動に取り組めた。自分のクラスを運営する意識が高まった。		○			学年の発達段階に応じて活動を工夫する。自主的に取り組んでいる姿を共有することで強化する。高学年の姿を憧れに。話し合う活動に消極的な児童へのサポートを考えたい。(ICTの活用など)	
		学習習慣の形成	腰骨を立て、目・耳・心で話を聴き合う、学習習慣と姿勢づくりを進めることができたか。	朝の時間の活用から、学習に向かう姿勢ができてきた。聴く姿勢にまだ課題あり。		○			聴きたいと思う授業展開や教材の工夫をし、自ら学びたい解決したいと思えるような授業を考えたい。聞くためのルールや、聞くことができたかを振り返ることも大事にしたい。	
		学習課題の共有	学習課題を共有し、課題解決に向けて、友の考えを聴き自分の考えが伝わるように話す場面を授業の中に設定したか。	話す場面を設定することはできたが、考えを整理したり、整理した上で深めたりすることがうまくできていない。考えを話せる子どもが固定化してきていることも課題。			○		子どもたちが話したい、友の意見を聞きたいと思える課題の設定。子どもたちの声を拾い上げ、つないでいく切り返し。教師が互いの授業から学び合う機会を大切に、参観後には互いに振り返る時間を短時間でも取るようにする。	
		話し合い活動の充実	ペア学習や小グループによるテーマ追究の話し合い活動を設け、共に学ぶ楽しさに触れさせながら、ともに考えを練り上げ、高める力を育むことを通して、学力向上に努めたか。	話し合いを積極的に取り入れ、意見を言う姿も増えてきた。話し合いの観点をはっきりさせてグループ活動を意識したが、メンバーによっては話し合いが停滞してしまう。また、考えを出し合うことはできて、練り上げることには課題が残った。			○		何のために話し合うのか観点を明確にした話し合いの場を設定するよう努める。また、シンキングツールを利用して、考えを整理したり、グループの人数を工夫したりする。安心して話ができる学級経営も大事にする。	

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった